

[ 成果情報名 ] シクラメンピシウム根腐病被害軽減対策

[ 要約 ] 赤玉土を加えた培養土、亜リン酸液肥C鋼管施用、ほ場衛生管理により、シクラメンピシウム根腐病の被害を軽減することができる。

[ 担当 ] 山梨県総合農業技術センター・環境部・作物病害虫科・横内京子

[ 分類 ] 技術・普及

---

[ 課題の要請元 ]

総合農業技術センター農業技術普及部

[ 背景・ねらい ]

県内のシクラメン産地で、開花期以降の株がしおれ、ついには枯死するシクラメン萎凋症状が発生し問題となっており、ピシウム菌 (*Pythium irregulare*) による新たな病害であることから「シクラメンピシウム根腐病」と命名した(22年度成果情報)。そこで、このシクラメンピシウム根腐病による被害を軽減するための対策について検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 培養土に赤玉土(細粒)を重量比で30%混入することにより、シクラメンピシウム根腐病の発生が軽減される(図1)。
2. 亜リン酸肥料の施用方法としては、亜リン酸液肥をC鋼管に流し入れ、底面給水させることで、本病の発生が最も軽減される(図2)。
3. 亜リン酸液肥の5000倍液を、9月~11月に2週間おきにC鋼管に流し入れ、底面給水させることにより、本病の発生が軽減される(図3)。
4. 本病発生ほ場で栽培されているシクラメンとニューギニアインパチェンスから、本病の原因菌である *P. irregulare* が分離された。接種試験により相互に病原性が確認された(表1)。

[ 成果の活用上の留意点 ]

1. ピシウム菌は水を好むため、C鋼管による底面給水の場合にも間断灌水を心がけ、培養土が水分過多にならないよう管理する。
2. 赤玉土の重量比30%の培養土を100kg作成する場合には、調整ピート70kgと赤玉土(細粒)30kgを混ぜる。
3. 試験には、亜リン酸31%、カリウム25%の成分含有量の亜リン酸液肥を使用した。
4. 亜リン酸液肥(1000倍~5000倍)のC鋼管施用について、ランジェリーピンク、ファルパラローズ、ピアスの3品種では、9月以降施用した場合、シクラメンの生育に実用上問題のないことを現地ほ場で確認している。
5. ハウスを出入りする際は、ピシウム菌を持ち運ばないように注意する。特にシクラメンとニューギニアインパチェンスの栽培が重なる時期は、相互にピシウム菌に感染させないように注意する。

[ 期待される効果 ]

1. シクラメンピシウム根腐病の被害が軽減されることで、シクラメンの安定生産につながる。

[ 具体的データ ]

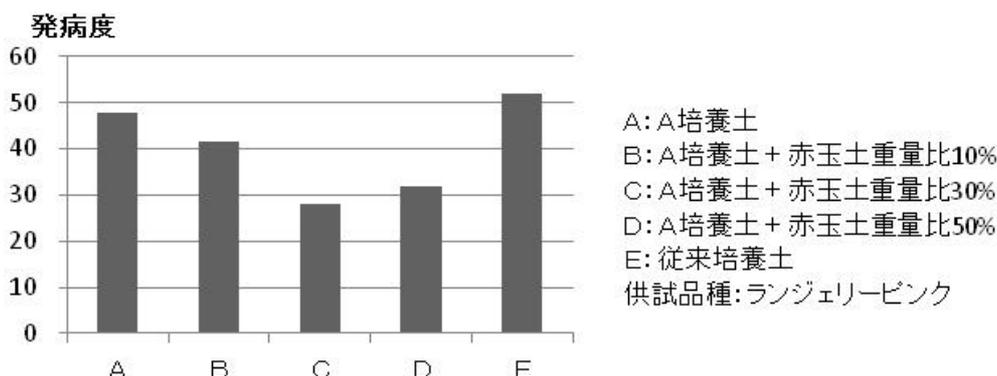
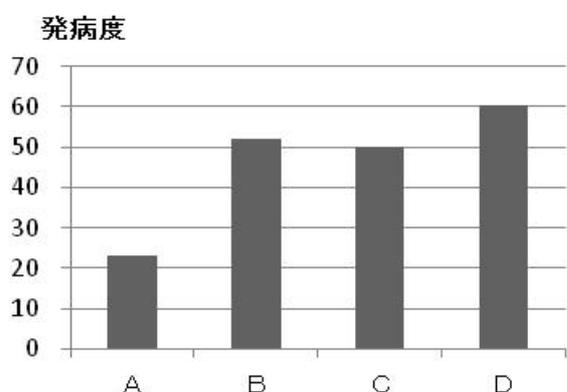
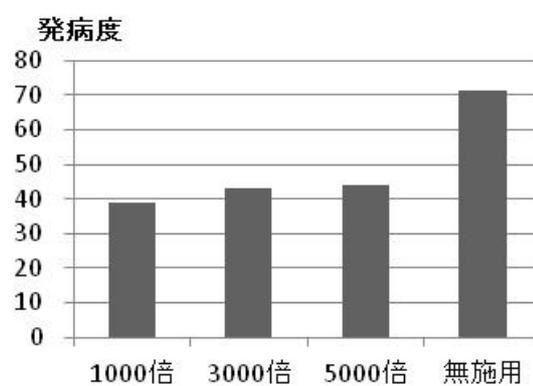


図1 赤玉土の混入量の違いによるシクラメンピシウム根腐病発病度の差



A: 亜リン酸液肥1000倍液C鋼管施用  
 B: 亜リン酸液肥1000倍液葉面散布  
 C: 亜リン酸粒状肥料の土壌混和  
 D: 無施用  
 供試品種:ランジェリーピンク

図2 亜リン酸肥料の施用方法の違いによるシクラメンピシウム根腐病発病度の差



供試品種:ランジェリーバイカラー

図3 亜リン酸液肥C鋼管施用濃度の違いによるシクラメンピシウム根腐病発病度の差

表1 シクラメンおよびニューギニアインパチエンス分離菌の病原性

	シクラメン 分離菌 ( <i>P. irregulare</i> )	ニューギニアインパチエンス 分離菌 ( <i>P. irregulare</i> )
シクラメン	+	+
ニューギニアインパチエンス	+	+

+ : 根腐れ症状あり    - : 根腐れ症状なし

[ その他 ]

研究課題名:シクラメン萎凋症の原因究明と対策

予算区分:県単(重点化)

研究期間:2010~2013年度

研究担当者:横内京子、舟久保太一、國友義博、渡辺淳、山崎修平